

風早北部 防犯情報 しょうなん

行動無くして結果生まれず

SHOW "No Action No-result"

本稿は3頁です

犯罪から
子どもを
守るには？



子どもを守るために 大人がすべきこと

連れ去りやわいせつ行為など、子供が日常生活の中で犯罪の被害に遭うケースが毎年後を絶ちません。小さなお子さんをもつあなたは「どんな場所」「どんな人」に気をつけるべきか教えられますか？その対策として一昨年2月の毎日新聞の記事を基に以下に対策をお知らせします。

危ない場所ってどんなところ？

犯罪はどこでも起こりえます。たとえ人通りがあっても、犯罪者は子供が1人になった瞬間や死角になる場所を見つけて子供を狙います。子供が外を歩く時に気をつけてほしい場所について、「ひ・ま・わ・り」という標語を使って注意を呼びかけています。

- 「ひ」とりだけになるところ
- 「ま」わりから見えない（見えにくい）ところ
- 「わ」かれ道、わき道など、裏道の多いところ
- 「り」ようされていない家や、公園など人がいないところ



不審者ってどんな人？

「怪しい人を見たら逃げて」と言うのは簡単ですが、どんな人が不審者なのかを具体的に伝えるのは難しいものです。中には「近所の優しいお兄さん」を装って子供を連れ去ろうとする人もいます。

不審者を見極めるコツとして提唱するのは、「は・ち・み・つ・じ・ま・ん」が特徴の人です。

- しつこく何かと「は」なしかけてくる人
- 理由もないのに「ち」かづいてくる人
- 道の端や物陰でじっと「み」つめてくる人
- いつまでもどこまでも「つ」いてくる人
- あなたが来るのを「じ」っと「ま」っている人



■ こういう人に出たら「ん」？と疑って注意しよう

子供には、こういう人がいたら無視するように伝えましょう。

不審者に遭遇したら？

＜きっぱりと断る＞

怪しい人に声をかけられたら断ることが大切です。「嫌です」「駄目です」「行きません」。断ることで、7～8割の不審者が犯行を諦めるという警察の調査結果もあります。

実際にある声掛けの下記のパターン例を使い、子供と一緒に断る練習をしてみましょう。

- ◆ 「君かわいいね、写真撮らせて」→「嫌です」「駄目です」
- ◆ 「可愛い子猫がいるよ、あそこの家の裏」→「行きません」
- ◆ 「おまわりさんだけど、少しだけ話を聞いていいかな」→「駄目です」
- ◆ 「お母さんが入院したから、一緒に行こう」→「家に帰って確かめます」
＜逃げる＞

専門家の調査によりますと、犯罪者が子供に狙いを定めるのは約20メートル手前からだといいます。徐々に近づいて子供が気づいていないことを確認し、6メートル手前で襲いかかろうとします。いざという時、子供は自分で逃げる判断をしなければなりません。

20メートルを全力で逃げる

多くの犯罪者は、20メートル追いつかなければ人目が気になり、追うのを諦めます。子供たちには全力で走って逃げる練習をさせましょう。

背負っているランドセルを捨てることも効果的です。もしも犯人に追いつかれてランドセルをつかまれたとしても、捨てることで相手の意表をつき、時間稼ぎになるからです。

ぶんぶん・バタバタしよう

もしも手首をつかまれたら、腕を横にぶんぶんと振り、相手の手から腕を抜きましょう。それでも腕が抜けない場合には、しゃがんでお尻を地面につけ、足をばたつかせて相手のすねを蹴るのも得策です。



②

後ろから抱きつかれたら、瞬時にしゃがんでから走って逃げたり、どうしても逃げられない場合は手首や指にかみついたりすることも必要です。

参考として、七つの基本動作をまとめた「ハサミとカミはお友達」を以下にお知らせします。

- ①「は」しる…**20メートルは走って逃げる**
- ②「さ」けぶ…**大きな声を出す**
- ③「み」る…**前を見てしっかり歩く**
- ④「と」びこむ…**近くの家「助けて」と飛び込む**
- ⑤「かみ」つく…**防犯ブザーを鳴らす、腕ブンブンや足ジタバタで抵抗し、それでも駄目ならかみつく。**
- ⑥「は」つきり、**きっぱり断る**…「嫌です、駄目です、行きません」
- ⑦「お友達」と助け合う…**防犯ブザーを鳴らしたり叫んだりして周囲の人に知らせる、相談する**



すぐにげる



専門家によれば、一般的に「弱々しくて抵抗しなそうな子」「ぼんやりとふらふらしている子」「素直そうで人なつこい子」——は狙われやすい傾向があるそうです。子供の性格も考慮し、犯罪から逃れるすべを伝えてください。

¹ 2023年2月9日付毎日新聞に掲載、東京都内 NPO 法人「体験型安全教育支援機構」代表の清永奈穂さんへの取材を基に対策をまとめた神内亜実記者の記事を引用しました。